

1 基本理念

海津市の最上位計画である海津市第2次総合計画（基本構想2017～2026、基本計画2017～2021）では、「水と緑と人がきらめく 輪でつながるまち 海津」をまちづくりの将来像として掲げ、保健・医療・福祉分野では「だれもが健康で 笑顔あふれる まちづくり」をめざしています。個人や社会の幸せをめざす上で、“健康”は最も大切な財産のひとつです。ここでいう健康とは、障害や病気の有無にかかわらず、市民一人ひとりが、自らを元気であると感じ、生きがいをもって暮らすことができる心身の状態ととらえています。

市民一人ひとりが生活習慣を見直し、自ら健康づくりに主体的に取り組むとともに、みんなが協力し支えあいながら、健康づくりの実践の場や機会づくり、健康に関する知識の習得や情報提供、健康づくりをサポートする人材づくり等、さまざまな活動に取り組めるよう推進を図ります。

自分でつくる みんなで支える 健康づくり
健康で笑顔あふれるまち 海津

2 基本方針

(1) 健康づくりに関する総合的な計画として位置づけ

第1次かいつ健康づくりプランを踏襲しつつ、食育推進計画及び母子保健計画を含む健康づくりのための総合的な計画として、子どもから高齢者まで生涯を通じての健康づくりを推進します。

(2) 一次予防の重視

早期発見、早期治療といった「二次予防」にとどまらず、従来にも増して積極的に健康を増進し病気の発症を予防する「一次予防」に重点をおいた健康づくりを推進します。

(3) 市民が主役の健康づくり

健康づくりでは、市民一人ひとりがその大切さに気づき、主体的に実践することが重要です。そのため、市民が自らの健康について考え、生活習慣の向上や改善に向けて実行していくよう、計画策定段階からアンケート調査やヒアリング調査などを通じて、市民の意見を広く取り入れ、市民の主体的な健康づくりを進めます。

(4) 地域で進める健康づくり

市民一人ひとりの健康づくりを支援するためには、健康に関する的確な情報を提供し、情報の共有化を図っていくことが重要です。学校・職場・医療機関・行政・ボランティア団体等がそれぞれの特性を活かしつつ、相互に連携して個人の健康づくりを地域全体で支援する体制づくりを進めます。

(5) ライフステージに応じた重点取り組み、数値目標の設定

健康づくりを実効性の高いものにするために、計画の推進にあたってライフステージを乳幼児期（0～6歳）、学童期・思春期（7～19歳）、青年期・壮年期（20～64歳）、高齢期（65歳以上）と大きく4つに分け、それぞれのライフステージ別に重点取り組み項目を明確にします。目標の達成状況を評価するために、客観性のある成果指標（数値目標）を設定します。

また、行政の取り組みについては活動主体・担当課を明確にし、健康づくりに関する施策・事業が効果的・効率的に展開できるように取り組み、設定した指標に基づいて、健康づくり施策の進行管理及び評価・検証に努めます。

3 計画の体系及び内容

基本理念の実現に向け、4つの対策を柱とし、10項目の分野において取り組みを展開します。

